

研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

研究目標

- ◎ 考える力を育む手立てを設定した提案授業をもとに、相手の意見を聞き、受け止め、伝えるためには、どのような手立てが必要か授業づくり、授業実践を通して探っていく。

研究の視点

- 【視点1】考えを引き出す指導の工夫
- 【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫
- 【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと（成果）

- ・話す態度や聞く態度が育ってきた。（低）
- ・理由付けしながら話すことができるようになってきている。（低）
- ・課題や発問に対して、目的を持って読み解く力が付いた。（中）
- ・個人ワークやグループワークを通して、一人一人が自分の考えを持つことができるようになった。（高）
- ・相手（先生方）のことを考えて活動することができるようになってきた。（低）
- ・インタビューなどの経験をすることができた。（特）
- ・互いに認め合うことができるようになってきた。（特）
- ・自分のこととして考え、話そうとする力。（こ）
- ・低・中・高学年で共通して、導入での見通しを持たせること、板書時のめあてとまとめの書き方、ペア学習やグループ学習での話し合い、学習の振り返りなどのスタイルを授業に取り入れたため、身に付けさせることができた。（少）

自分の考えを持つことができるようになった。
自分の考えの理由を説明できるようになった。
相手の考えを聞き相違点・共通点・良さがわかるようになった。

② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力（課題）

- ・見通しを持ちながら、話し合いを進行できる力を身に付けさせたい。（低）
- ・相手を意識した話し方を身に付けさせたい。（低）
- ・話し合いの方向を意識し、意見を紹介するだけではなく、さらにより考えを練り上げていく力（中）
- ・考えを表現し、互いに交流しながら、自分の考えを更に深めることができるような力を身に付けさせたい。（高）
- ・相手（友達）のことを考えて行動する力（特）
- ・今年度と同じく、自信を持って言葉で表現する能力。（こ）
- ・自立解決で自分の考えをしっかりと持ち、その理由や根拠が説明できる力を身に付けさせたい。（少）

考えを表現し、互いに交流しながら、早良により考えを練り上げる力

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか（次年度）

- ・各教科や日常生活場面で対話的な学びができる場を作っていく。（低）
- ・研究テーマ・研究の視点の継続。（中）
- ・3人組による話し合い活動を、様々な教科で行い、表現したり交流したりする機会を継続して行う。（高）
- ・話し合いの際には、話し合う必要感を持たせてから、課題を明確に提示していく。（高）
- ・コミュニケーション能力を高める。（特）
- ・よいところの認め合い。（日常生活、生活単元）（特）
- ・今年度の研究主題を継続したい。有効な手立てについて、より研究を深めていきたい。（こ）
- ・今後も手立てとして、「導入時での既習事項の確認」や「自分の考えをもちその根拠を説明すること」「学習の振り返りでは、自分の言葉でまとめること」を引き続き指導していきたい。（少）

研究テーマ・研究の視点の継続

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

課題…見通しが持てるもの 何ができればいいのか付けたい力が明確なもの
発問…指導者が明解を持っていること 考えを練り上げるに丁度いい難しさのもの

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

双方向であること 互いの意見の検証をする
「絞る」最も良い考えを見つける
「広げる」別解の可能性を探る
「深める」よりよい考えにするために必要なことを考える

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

付けたい力にそった振り返り
友達の良さを見つける

低学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 ○学年研究目標

自分の考えを持ち、言葉に表す力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・自分の考えを持たせ、進んで発表することができるような課題・発問の工夫
- 主人公の行動や様子に関わる言葉を明確に押さえることで、児童に具体的なイメージを持たせることができ、児童の考えを引き出すことができた。
- 児童が考えを書きやすいワークシートの構成や発問を工夫することができた。
- 思ったことを伝える言葉を提示することで、自分の考えを伝える手がかりにすることができた。
- 児童の考えを引き出すために、発問を吟味し、また、どのようなアプローチで課題にせまるとよいのか、ということ授業で確かめることができた。
- 例の出し方や教師の発問の仕方等が児童の考えに影響を与えることを実感した。
- 児童の考えを引き出すための言葉や文章の意味の押さえが弱かった。物語の読み取りの流れの中で押さえておくべき言葉をきちんと洗い出しておく必要がある。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・友達と考えを相互に伝え合い、自分の考えを深めることができるような学習活動の工夫
- ワークシートやノートを見せ合ったり、自分の感想を伝えたりすることで、自分の考えと違う人もいることを感じさせることができた。
- 話合いの人数を3人程度にすることで、児童が話しやすい場の設定を整えることができた。
- 考えを伝えることはできたが、聞き手の受容の仕方や伝えられたことに対する意志表現をすることにも時間をかけて指導する必要があった。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- ・学習したことを振り返り、学んだことや感じたことを表現できる方法の工夫(まとめ・学習感想)
- 研究を通して、児童が物語の好きなところをすぐに見つけることができるようになり、その後の読書活動に生かすことができた。
- 言葉を大切にしながら、登場人物の気持ちを音読に表現したり、動作化したりすることができるようになってきた。
- ノートやワークシートを活用しても、指導の最後に「教科書」や「音読」に立ち返るという過程が大切だと感じた。

3 考える力を育む授業をつくるために（今後に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
→登場人物の行動をワークシートやノートにまとめることによって、課題や発問に対して自分の考えを持ち、伝え合う力の基礎が身に付いた。
- ②今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
→友達の考えを聞いて、自分の考えと比較し、同じところや違うところを意識させたい。
- ③そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
→・普段の授業の中で、自分と友達との意見を比較するような活動を取り入れていく。
・教科書の題材に関連した読書活動を取り入れ、言葉の力の育成を図る。

中学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 ○学年研究目標

自分の考えを持ち、伝え合う力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

・自分の考えを持たせ、進んで発表することができるような課題・発問の工夫
＜ワークシートの工夫＞

○並列して比較させたことで児童の思考が整理しやすくなった。

○観点を示したことで、自分の考えをまとめる手助けとなった。

○「広告と説明書を読み比べよう」では教科書と同じようにカラーにしたことにより、イメージがつかみやすかった。

○「保健だよりを読み比べよう」ではキーワードに線を引かせたことにより、考えを整理しやすくなった。

○ワークシートと黒板をリンクさせることで、考えのまとまらない児童の支援になった。

●より児童の実態に合ったものを工夫、改善していく。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

・友達と考えを相互に伝え合い、自分の考えを深めることができるような学習活動の工夫
＜学習形態の工夫＞

○グループの人数設定（今回は3人）が話しやすく、ペアよりも多様な意見が引き出せるので学びが深まり効果的だった。また、友達と考えを共有することで、自分の考えに自信を持ったり、自分の考えを深めることができた。

＜司会マニュアルの工夫＞

○話し合いがスムーズに行われ、抵抗なく課題に取り組む児童が増えた。

●1年から6年まで系統に沿った話形があるといい。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

・学習したことを振り返り、学んだことや感じたことを表現できる方法の工夫
（まとめ・学習感想）

＜学習計画の掲示＞

○見通しを持って学習に取り組むことができた。

○1単位時間ごとのゴールが明確になった。

3 考える力を育む授業をつくるために（今後に向けて）

①今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと

→課題や発問に対して自分の考えを持ち、伝え合う力の基礎が身に付いた。

②今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力

→マニュアルに頼らず、話し合う力を身に付けさせたい。

③そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか

→読書活動や辞典の活用を通して語彙を増やし、活用できるようにさせる。

高学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 ○学年研究目標

自分の考えを深め、表現する力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・自分の考えを持たせ、進んで発表することができるような課題・発問の工夫
- 付箋紙とホワイトボードを併用して使うことで、子供達の話し合いの際、考えを整理することに役立った。
- ワークシートの工夫。自分と友達の考えを比較できるような構成にし、話し合いの前に、個人で書き込む時間を設けた。
- 指導計画の中に「発問」の項目を位置付け指導案を作成したことで、単元を通して児童に学ばせたい内容を教師側が明確に捉えることができた。そのことにより、児童に思考させる内容を精選できた。
- 2つのツールを単位時間内に使用したが、絞って使用した方が良かった。
- 中心発問による練り上げに時間を十分確保するために中心発問に至るまでの授業の展開を整理しなければいけない。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・友達と考えを相互に伝え合い、自分の考えを深めることができるような学習活動の工夫
- 同じ課題について、話し合いの構成メンバーを意図的に変えて、話し合いを活性化させることができた。
- 3人一組のグループを作ることで、参加しきれない児童もなく、友達との意見を交流しやすい場を設定することができた。
- 話し合いは活性化したが、課題の焦点がぼけてしまった。
- 3人一組のグループワークに進んで取り組んでいたが、話し合いを進行できる中心となる児童がいないグループは深い学びにまで至らなかった。また、話し合いを「伝える」ではなく「伝え合う」にさせる手立てが必要だった。
(話形、話し合いのルール など)

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- ・学習したことを振り返り、学んだことや感じたことを表現できる方法の工夫
(まとめ・学習感想)
- 毎時間の授業で前時の振り返りを必ず行った。

- まとめたことを発表するということをくり返したことで、学習感想を短くまとめたり、要点を発表したりすることに取り組むようになってきた。
- 日常生活に生かすところに結びつけるのが難しかった。
(他教科とのつながり)
- 授業感想の形、文量、言葉か記号か、様々な点で再考する必要がある。

3 考える力を育む授業をつくるために（今後に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った取り組みで、身についた力
自分の考えを持ち、話し合いの中で表現する力が身に付いてきた。
- ② 今後、更に身に付けたい力
自分の考えを話し合いの中で練り上げていくことが必要である。
- ③ そのための手立て
話し合いの経験を多く積み、話形を身に付けさせる。

少人数指導部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 ○学年研究目標

既習事項を活用し、課題に対する自分の考えを持つ能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・自分の考えを持たせ、進んで発表することができるような課題・発問の工夫
- 導入で既習事項を確認し掲示することで、本時の課題の見通しを持たせることができた。
- 自力解決が難しい児童への手立てとして、本時につながるポイントを確実に押さえること。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・友達と考えを相互に伝え合い、自分の考えを深めることができるような学習活動の工夫
- ペアやグループでの話し合いの場を設定したことで、全員が自分の考えを持ち相手に伝えたり友達の意見を聞いたりすることができた。
- iPadを活用し、考えを画面に映すことで自力解決の難しい児童への手立てとなった。児童の考えを整理したり分類したりするために、ホワイトボードやワークシートと併用したことは有効だった。
- ペア学習で、話し合いが成立しないグループへの手立てが必要である。さらに考えを深め合うために発表方法の工夫が必要。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- ・学習したことを振り返り、学んだことや感じたことを表現できる方法の工夫（まとめ・学習感想）
- 本時のめあてを生かし、自分の言葉で学習のまとめを書けるようになってきた。
- 学習のまとめの際にはノートに感想やサインを書かせたり、挙手で確認したり学年に応じた振り返りの時間を持つことができた。
- 本時を振り返る時間の確保が必要である。さらに自分の言葉でまとめられるようにするために、学習の内容のポイントをしっかりと押さえられるようにする。

3 考える力を育む授業をつくるために（今後に向けて）

- ①今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
課題に対して、既習事項を活用し進んで取り組む力が身につけてきている。

②今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力

学年の実態に合わせ、自分の考えをしっかりと持ちその理由や根拠が説明できる力を身に付けさせたい。

③そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか

今後も「導入の工夫」「学習形態・伝え合いの工夫」「本時の振り返り」を共通の授業スタイルとして、引き続き取り組んでいく。また、学年の実態に合わせて、iPad、ホワイトボードを活用した発表方法を工夫していきたい。

特別支援学級部 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 特別支援学級研究目標

自分の考えを持ち、友達に伝える能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- ・ホワイトボードや品物カードの活用
- 購入する物を考える際、一人一人の児童に品物カードとホワイトボードを用意し、自分の買いたい品物カードをホワイトボードに置かせることで、全員が買いたい品物を選択することができたので、効果的であった。
- 教師側で用意した品物カード以外の意見が出にくかった。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- ・ホワイトボードを使った発表と話し合い
- ホワイトボードに貼られた写真を手がかりに、全員が買いたい品物を発表することができた。選んだ理由を話すことができた児童もいた。
- それぞれの児童の発表で終わってしまい、児童同士の話し合いまで発展させることができなかった。
- ・条件の提示
- 「みんなで使えるもの」「2,860円以内」という分かりやすく短い条件を提示したことで、買いたい品物を絞り込む時のポイントが、ぶれることなく理解されていた。
- 自分が選んだ品物が「みんなで使えるもの」であるか考え直す時間がやや足りなかった。

【視点3】学びを振り返り、日常生活に生かす指導の工夫

- 自分が選んだ品物が買えないことに決まっても、友達の意見を認め、納得する様子が見られた。

3 考える力を育む授業をつくために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと
 - ・自己選択する力やそれを伝える力
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
 - ・実生活の中で、よりよく友達と関わりながら、自己表現する力。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
 - ・一人一人の実態を把握し、身に付けさせたい力やそのために必要な支援の工夫を教師間で共通理解する。
 - ・日常生活に生かせる力を育てるためにも、小集団の中で、教科・領域を合わせた指導である生活単元学習の内容を充実させていきたい。

ことば 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～（3年次）

1 ○学年研究目標

考えたことを整理し、自信を持って言葉で表現する能力を育む授業づくり

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを引き出す指導の工夫

- 児童の生活体験と結び付いた興味のある題材を設定すること、実際に黒松小の近くで自生していたくわの葉を見せたり、挿絵のペープサートや手作りの小道具を補助的に使うことで、児童がイメージを持って進んで考え、話そうとすることができた。
- 自分の言葉を使って考えることができるような働きかけの工夫を今後も考えていきたい。

【視点2】考えを伝え合い深い学びの持てる指導の工夫

- 他の通級児童の考えも取り入れることで、自分の考えを広げることができた。
- 深い学びが持てるように、他の通級児童の考えに対する感想を聞く等工夫する必要がある。
- 物語の場面毎に理解できているか確認しながら、読み重ねていくことが必要であった。スモールステップで進める。

【視点3】学びを振り返り日常生活に生かす指導の工夫

- 授業のめあてを明確化し、振り返る場面を設定したことで、達成できたこと、課題として残っていることのそれぞれを児童と共有することができた。
- 個別指導で、自分の考えを深め、それを伝えるという経験ができたことは、在籍学級でも発表してみようとする意欲と自信につながったと思われる。
- ことばの教室で学んだり、練習したりしたことを日常生活に生かせるように、担任や保護者との連携をしながら確認をしていく。
- 担任や保護者との連携をしつつ、時にはクラスに出向いて児童の発表の様子を参観して確認をする必要がある。

3 考える力を育む授業をつくるために（次年度に向けて）

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちに身に付いたこと自分のこととして考え、話そうとする力。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力
今年度と同じく、自信を持って言葉で表現する能力。
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いか
今年度の研究主題を継続したい。有効な手立てについて、より研究を深めていきたい。

